

## ➤ 17日 土曜

### 伝道者の書



5:10 金銭を愛する者は金銭に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。これもまた空しい。

5:11 財産が増えると、寄食者も増える。持ち主にとって何の成功だろう。それを目で眺めているだけだ。

5:12 働く者は少し食べても多く食べても、心地よく眠る。富む者は満腹しても、安眠を妨げられる。

5:13 私は日の下に、痛ましいわざわいがあるのを見た。所有者に守られていた富が、その所有者自身に害を加えることだ。

5:14 その富は不運な出来事で失われ、息子が生まれても、その者の手もとには何も無い。

5:15 母の胎から出て来たときのように、裸で、来たときの姿で戻って行く。自分の労苦によって得る、自分の自由にするのできるものを、何一つ持って行くことはない。

5:16 これも痛ましいわざわいだ。出て来たときと全く同じように去って行く。風のために労苦して何の益になるだろうか。

5:17 しかも、人は一生、闇の中で食事をする。多くの苛立ち、病氣、そして激しい怒り。

5:18 見よ。私が良いと見たこと、好ましいこととは、こうだ。神がその人に与えたいのちの日数の間、日の下で骨折るすべての労苦にあって、良き物を楽しみ、食べたり飲んだりすることだ。これが人の受ける分なのだ。

5:19 実に神は、すべての人間に富と財を与えてこれを楽しむことを許し、各自が受ける分を受けて自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。

5:20 こういう人は、自分の生涯のことをあれ

これ思い返さない。神が彼の心を喜びで満たされるからだ。

多くの人はお金を人生の目的や楽しみにしますが、それもむなしなこと。なぜなら金銭は、増えれば増えるほど、もっと欲しくなるからです。または富むものは、それを減らさないように、また守るようにと腐心して、「安眠を妨げられる」からです。ですから富を加えることは「痛ましいこと」であると、伝道者は言っています。

またこの世で富を増し加えても、結局は「裸でもとの所」すなわち天に帰るのであるから、「風のために労苦」するようなものであり、益がないのです。

これが神がない場合の人生です。私たちもまた、神様を計算に入れなければ、または神様のみこころを目的に入れなければ、「風のために労苦する」ことになってしまいます。そうならないように、主がおられると知っている者の生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

